

令和4年度 現地研修会(第7回)(報告)

～観光・文化遺産を有する地域における治山対策工のあり方～

- 主 催 : 一般社団法人森林技術コンサルタンツ協議会
都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会
- 日 時 : 令和4年12月8日(木) 11:00～15:00
- 参加費 : 無料
- 場 所 : 千葉県鴨川市小湊大森谷国有林地内(鴨川市小湊地区)
(別紙資料を参照)
- 行 程 : 11:00 集合(別紙位置図の駐車場又は小湊駅)
11:00～11:30 研修現場への移動
11:30～11:45 主催者開催挨拶等
11:45～12:30 研修の概要説明・現地視察①
12:30～13:30 昼食
13:30～14:45 研修の概要説明・現地視察②
質疑及び討論
14:45～15:00 主催者閉会挨拶
15:00 解散
- 研修内容

・研修講師: (株)森林調査設計事務所 取締役会長 小川敏正氏

・研修内容:

安房小湊は日蓮上人誕生の地で、誕生寺や鯛の浦が有名で、観光・文化遺産のすぐ近くまで山腹が迫っており、崩壊の危険性が高いところである。過去に多重の土留工や落石防護工が施されているが、老朽化が進んできており、インフラ長寿化の維持更新として、上段の土留工を撤去し、法切、排土を行った後に、法切・排土を行い、法面工と落石防護工を施すことが提案された。また、山腹の上部に大木が茂って、枝の落下や倒木により直下の保全対象が被災する危険性がある。このため、治山事業のメニューとして認められた、胴切りや特殊伐採による枝落として安全を図る施業を検討している。また、日蓮の両親を祀っている妙蓮寺の裏山が崩壊しているが、人家の真裏であり、大きな重機を使うことができないことから、モルタル吹付による法面工ではなく、1mのアンカーボルトとアラミド繊維の帯状法面材を格子状に配置したGeoベルト工法が施工された。工期は通常の法面工の60%で済み、工費も90%であった。基本的にGeoベルト工法は、表面浸食防止の抑制工であり、表層す

べり防止の抑止工が必用な場合には、アンカーボルトを3mにしたGeoベルト plus 工法を採用する。ノンフレーム工法は樹木にある斜面に施されるのに対して、Geoベルト工法は小規模な樹木のない崩壊後斜面に適用される。まだ施工事例がすくないことから、その真価を検証するためには更に普及を図ることが重要である。

○参加者：全参加者48名

- ・受講者：16名 事務局：6名
- ・林野庁、関東森林管理局東京事務所、千葉森林管理事務所：6名
- ・千葉県林務関係者：12名
- ・那須建設、山形緑化、日鉄建材、日本林業土木、三和工産：8名

○本研修会は JAFEE 認定プログラムとして実施(CPD3単位)

以上

(別紙)

【 研修現場 位置図 】

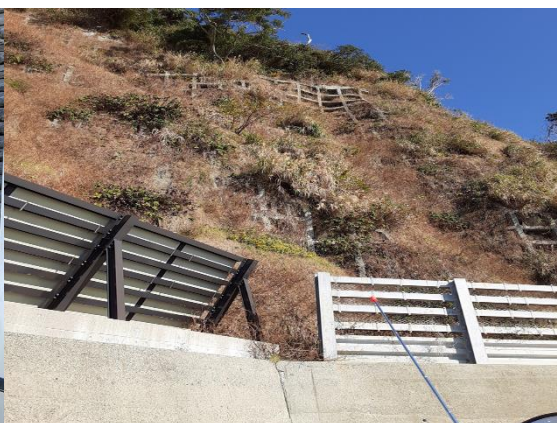


安房小湊駅から集合場所まで
徒歩:25 分
1.8km





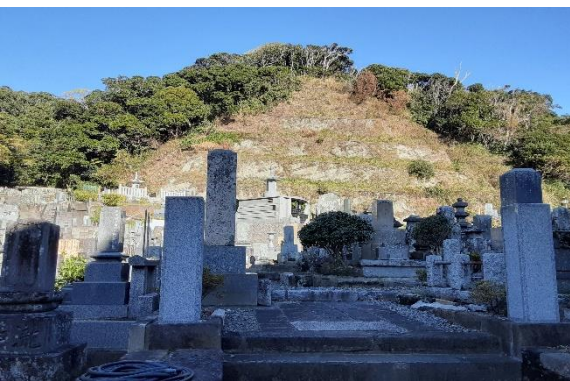
(主催者挨拶)



(老朽化した落石防止工の維持更新)



(間伐材を用いた落石防止工)



(特殊伐採予定地)



(Geo ベルト工法の施工地)



(Geo ベルト工法の説明)